

新基地建設反対名護共同センターニュース

非常事態宣言下でも新基地工事強行



8月20日午前9時のキャンプ・シュワブの工事用ゲート前の様子。ヘリ基地反対協の当番で10人ほどが監視活動をしていました。コンクリートミキサー車やダンプカーが数十台基地内に入りました。

沖縄県はコロナ感染症が拡大し、8月29日まで「非常事態宣言」中です。沖縄のコロナ感染症拡大には、米軍基地内のクラスター発生と安倍政権の下でのG.O.「トランプの強行」という二つの要因があります。こうした中で「辺野古」の現場では「オール沖縄会議」の方針で非常事態宣言中の抗議行動は中止し、監視活動のみに抑えています。しかし、防衛局はお盆休暇も取らず土日以外は連日、陸上からも海上からも基地内へ土砂や生コンの搬入を続けています。

コロナ禍で非常事態宣言中、しかも軟弱地盤改良のため県に設計変更申請中の工事強行は、幾重にも県民をじゅうりんするものです。震度1でも崩壊する恐れがある護岸です。イージス・アシオアのように中止せざるをえなくなり、残るのは環境破壊だけとなったら、一体誰がどのように責任を取るのでしょうか？

崩壊する恐れ
の護岸
責任は誰がとる

違法な赤土を海上から埋立現場へ

防衛局は連日安和鉾山からダンプ数百台分の「違法な赤土」を海上輸送し、辺野古側沿岸に埋め立てています。この赤土の搬送と埋立は「沖縄県赤土流出防止条例」に明確に違反しています。



1

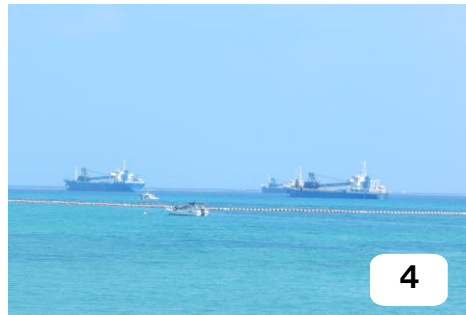


2

① 安和鉾山の堆積場から赤土を積み出し②塩川港へ搬送するダンプ



3



4



5

③塩川港で台船へ積み沖で輸送船に積み替え④大浦湾に到着した輸送船⑤K9護岸で赤土を台船からダンプに積み埋立現場へ

100年前、権力に抗して声をあげた少女がいた



千代子の恩師であるアラギ派の歌人土田文明は、教え子を一「こころざしつたふれし少女(おとめ)よ新しき光の中におきておもはむ」と歌いました。



【藤田講演の要旨】1905年長野県生まれの伊藤千代子(写真下)は幼少期に両親と死・離別、祖父母に養育され、諏訪高女から東京女子大に入学。社研活動を経て黎明期の女性共産党員となる。27年の3・15弾圧で投獄。幹部党員や夫も転向する中、拷問されても信念を曲げず獄中のリーダー格に。しかし、独房での過酷な転向工作で錯乱状態となり入院。29年9月、肺炎を併発し24歳の生涯を閉じました。伊藤千代子の映画化の準備が進み、来年12月完成予定です。

革命運動黎明期の女性共産党員

伊藤千代子の生きざまを学ぶ
治安維持法同盟沖縄本部は15日、那覇市内で定期総会を開催しました。歴史研究者の藤田廣登さんが「多喜」と伊藤千代子を結ぶ点と線」と題し、100年前も前に国民の幸せと反戦平和の活動に青春をささげた伊藤千代子の生涯を講演しました。

伊藤千代子の生きざまを学ぶ

告示・縦覧の開始は一「非常事態宣言」解除以降に

防衛局が沖縄県へ提出した軟弱地盤の改良のための「設計変更承認申請書」の沖縄県による告示・縦覧期間は、コロナウイルス感染症拡大で沖縄県が8月29日まで非常事態宣言中であるため、まだ開始されていません。

緊急事態宣言が解除された後に、告示・縦覧が始まります。告示・縦覧が開始されたらマスコミも報道します。

縦覧期間中の3週間で全国から沖縄県知事に「意見書」をたくさん提出しましょう。意見書の様式、記載例、提出先などは「オール沖縄会議」のHPを参照してください。